

特集 2

Special Feature

当初予算要望書

要望内容は下記のとおりです。
 なお、二次元コードを読み取ると、全文を見ることができます。



市長へ要望書を提出する正副議長及び各常任委員長



Topic



9月16日、荒木市長に提出

1 総務委員会

◎防災に関して迅速かつ円滑な災害対策を図ること
 高齢者、障がい者、乳幼児等の要配慮者を置き去りにしないために簡易避難マニュアルを策定すること。また、新型コロナウイルス対策により避難所の収容人数が制限され新たな避難所の確保が必要であるため、早急に届出避難所登録制度を創設し周知することを強く要望いたします。

◎公民連携に関して不動産等の有効活用とリノベーションまちづくりの推進を図ること

PRE戦略を推進すべく、民間事業者のノウハウを生かした公的不動産やスペースの有効活用など、公民連携による魅力的な創意工夫を重ねる先進都市の事例や事務の研究を進めること。併せて、遊休不動産や公共空間の有効活用による、まちやエリアの再生手法を学ぶ「リノベーションスクール」の開催に向けた予算化と行政職員の参画を強く要望いたします。

◎自治体広報に関して発信力強化を図ること

市民の行政へのより深い理解と信頼を醸成するため、世代やターゲット毎に適した企画を立案し訴求力の高い広報活動を実施するための予算化、並びに地域外からの活力（人口、経済、購買力など）の積極的な誘引のため、広報監との連携によりさらなる魅力的な情報発信ができる体制の構築を強く要望いたします。

3 教育民生委員会

◎子どもへの支援体制全体の強化に関すること

未来を担う子どもの健全育成のため、子どもに関わる職種の方々が、子どもと直接触れ合う時間をより多くすることが重要であります。教員をはじめ、教育相談員、保育士、放課後児童支援員等の人数を増やすことで、教育・保育の事務作業の負担を減らすことができることから、これらの子どもに関わる職種の方々に対し、人的支援及び処遇改善の強化を強く要望いたします。

◎医師人材の確保と医療機関の整備に関すること

新型コロナウイルス感染症の収束が見えない中、ワクチン接種も始まり、桐生厚生総合病院をはじめとする地域を支える医療機関の負荷は増大しています。引き続き、地域に寄り添う医療機関の整備は急務であることから、医師人材の確保並びに医療設備等について人的及び物的な支援強化を強く要望いたします。

◎高齢者及び障がい者の生活環境整備に関すること

高齢者もしくは障がい者のみの世帯の生活実態を把握し、不足していること・ものに対し、支援をすることが必要であります。福祉輸送へのコミュニティバス「MAYU」の活用やタクシー券、福祉有償運送等、移動に対する支援の強化を図るとともに、真夏・真冬等気温の変化によりリスクが高い季節に対応するため、冷暖房等の住環境の現状把握や支援等、生活環境整備全体の支援の強化を強く要望いたします。

2 経済建設委員会

◎地域経済を応援する、市独自の事業振興対策を図ること

多様化する「新しい生活様式」に寄り添うニーズ把握と施策を継続すると共に、商業活性化に向けた消費の喚起、購買意欲の拡大につながる「プレミアム付き商品券」についてはその効果の検証を行い、よりの確なターゲット設定による、多面的な経済循環につながる予算確保を強く要望いたします。

◎持続的な地域経済の向上を担う人材の確保に向けた、受け皿の強化を図ること

外国人材の登用も視野に入れた人材活用調査を広く実施し、ニーズや課題を早期把握すること。独自採用が難しい場合には採用の支援を手掛けると共に、労働者がスムーズに域内での生活環境に溶け込むことができる、住環境整備や受け皿強化支援策の拡充を強く要望いたします。

◎地域資源の再発掘を図り、桐生ブランド化による、積極的な産業振興策を図ること

日本100選「森林浴の森」、県内産出額1位の「ぶた肉」や、遊休耕作地のクラインガルテン（市民農園）化、野趣に溢れるジビエの可能性追求など、桐生ならではの地域資源の再発掘、有効活用を図り、「桐生ブランド認定制」の導入など、付加価値を創出する新たな産業振興策を強く要望いたします。